

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(345)

迅速なアクセス

少子高齢化・人口減少や生成AI（人工知能）の発展、地政学リスクの高まりなどを背景として科学技術・イノベーションの重要性があらためて認識され、科学の再興が課題として指摘されている。この実現のため研究者が研究に専念できる十分な研究環境を整えることは重要である。しかし、わが国では特に若手研究者が迅速かつ十分に研究体制を整えることは難し

い。諸外国では研究環境の充実に向けた多様な取り組みがあり、参

研究設備の活用促進カギ

考になる国の一つが韓国である。

韓国では若手を含む幅広い研究者が、自身機器の情報や稼働状況の研究室で先端設備な



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター
フェロー（横断・融合グループ）
川澤 良子

早稲田大学大学院商学研究科修了。修士（商学）。民間シンクタンクの研究員、内閣府への出向などを経て、24年4月から現職。研究基盤・研究インフラやイノベーション促進型公共調達などについての調査を担当。

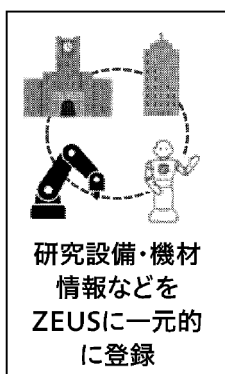
どの研究インフラを所れている。26年1月時ECである。NFE有していなくとも迅速点で登録されている機Cは11年から毎年、研にそれらにアクセスで器は9万9753点に究機関などを対象としきる仕組みがある。2上り、研究者は登録機た実態調査も行い、各015年に導入された器の一部をオンライン機関のZEUSへの登録状況や管理体制の調査結果を公表し改善策を講じている。

格な事前審査の仕組み設備・機器の購入や活用においてZEUSのに、活用が低調な設備仕組みとNFECCの支援が重要なカギとなつては機関内ZEUSを

通過した譲渡なども促進している。公的な研究開発事業を通じた研究

新事業を開始
日本でも、26年4月

ZEUSの活用イメージ



研究設備・機材
情報などを
ZEUSに一元的
に登録



NFECCが
調査し承認



研究者がZEUSで
研究インフラを
検索・利用

「研究基盤・研究インフラの海外政策動向（欧州、米国、韓国）」（2026年3月）を基に筆者作成 <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2025-XR-12.html>

韓国の取り組みは一例だが、諸外国のさまざまな工夫も参考に、日本の研究環境の充実に向けたさらなる進展が求められている。

（金曜日に掲載）